

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区六本木 6-5-27
園名	リトルパルズ保育園六本木

1 活動のテーマ

<テーマ>

異文化交流

<テーマの設定理由>

日常の中で英語の歌や挨拶、簡単な単語に触れる機会があり、「これ英語でなんて言うの?」といった発言が見られるなど、英語に対する興味・関心が高まっています。また、園の立地環境から、外国の人や文化に触れる機会も比較的多く、異文化に対して自然な関心を抱いている子どもが多いです。このような姿を踏まえ、英語を単なる言語として学ぶのではなく、遊びや交流を通して楽しく触れることで、異なる文化や価値観に親しみを持つ経験につなげたいと考えました。さらに、多様な文化に触れる中で、自分とは違う考えや表現があることに気づき、相手を尊重する気持ちやコミュニケーションの楽しさを育むことをねらいとして、本テーマを設定しました。

2 活動スケジュール

年間を通して外国人講師との交流や異文化紹介の時間などを活用し、異文化に触れて自分たちで表現することを楽しみました。異文化といっても漠然としてしまうため、「世界の遊び」「世界の服」「世界の踊り」などの具体的なテーマを取り入れ、外国人講師との伝え合いを楽しみました。

【4～7月】世界の遊び・おもちゃ 【8～11月】世界の服 【12～3月】世界の踊り

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

プロジェクター、外国人講師（オンライン英語）、WB イングリッシュのプログラムサポート、図鑑、写真、世界の遊び・おもちゃ・服・ダンスの映像

【環境設定】

- ・テーマを3つに分け、子どもたちに調べる機会を設けました
- ・実際に服屋やおもちゃ屋などへどのようなものが売られているのか見に行きました
- ・外国人講師とのレッスンで映像や音から学び、講師の言葉を子どもたちに分かりやすく伝えたり、質問したり、必要に応じて声掛けをしました
- ・子どもたち一人ひとりはやりたいことを伝えられるよう、一人ずつ発表する機会を設け、子どもたち同士のやり取りを見守りました
- ・世界の服について調べた際には、子どもたちの写真やその国の衣装の写真を用いて、着せ替えを楽しめるように工夫しました
- ・世界の踊りの映像を見ながら、子どもたちが自由に体を動かし表現出来る場を設定しました

4 探究活動の実践

<活動の内容>

「世界の遊び・おもちゃ」

子どもたちの知っている遊びやおもちゃについて、一人ずつ発表を行いました。その後、世界の遊びやおもちゃの映像や写真を見て再度どのような遊びやおもちゃが出てきたのかを話し合いました。実際に近隣のおもちゃ屋へ足を運び、異文化の違いについて触れられるよう工夫を行いました。

「世界の服」

映像を見るまえにどのような服を知っているのか、子どもたちで話し合いを行いました。その後、世界の服の映像や写真を見ました。どのような服があったのか実際写真で振り返りました。その他にも、近隣の服屋へ足を運び異文化との違いに触れました。また、子どもたちの写真をベースに、様々な国の服の写真を用意し着せ替えを楽しめるよう工夫しました。最後には一人ひとりどのような服を来てみたいのか発表する機会を設けました。

「世界の踊り」

踊りに対しイメージが持てるよう、初めに映像や写真を見ました。踊りだけでなく、音楽や音にも興味を示す姿が見られたため、どの国の踊りが気になったのかなど子どもたちで話合う場を設けました。様々な国の踊りがあることを知り、実際に音楽に合わせて体を動かし踊ることを楽しみました。最後は保育者を招いて発表する場を設けました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「世界の遊び・おもちゃ」

映像を見ている際に「これ、なあに？」などの質問がたくさん上がっていました。しかし、なかにはマトリョーシカの映像に対し「これ知っている！」「遊んだことある！」などと、実際に経験したことを言葉で伝える姿が見られました。

「世界の服」

普段自分たちが着用している服とは違い、不思議そうな表情を浮かべる姿も見られました。また「どうやって着るのかな？」「着物みたい」などと発言する子どもたち姿も見られました。

「世界の踊り」

音楽に合わせて体を動かし表現を楽しんだところ「先生たちに見せたい」などの声があがりました。保育者から「素敵！」などと褒められると、とても嬉しそうな表情を浮かべていました。

5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・様々な国の玩具や洋服に興味を持つ子どもが多く見られ、遊びの中で自然と英語に触れる姿が見られるようになりました
- ・玩具や衣服の名前を英語で答えようとするなど、言葉としての英語を「覚える」だけでなく、「使おうとする」意欲が育っていると感じました
- ・興味のある対象（玩具や洋服）と英語が結びつくことで、子どもたちが主体的に学ぶ姿が見られるようになりました

